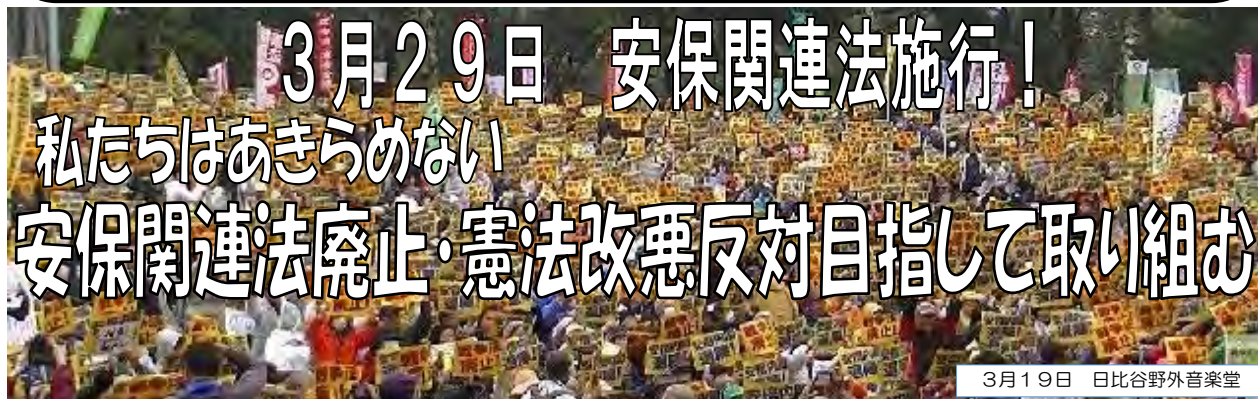


築こう！平和 活かそう！憲法

大田区職員9条の会ニュース

第108号 2016年3月29日 編集 大田区職員9条の会事務局
大田区職員労働組合気付



安保関連法（戦争法）が本日3月29日に、ついに施行されてしまいました！

自衛隊法など10の法律改定を一括して行い、同時に「国際平和支援法」という新法も制定した大規模な法律の施行です。これによって日本が攻撃されなくとも集団的自衛権の行使として戦闘行為が可能となり、「非戦闘地域」に限っていた他国軍への後方支援を拡大、他国軍への支援を世界中でいつでもできるように恒久法化されました。国連平和維持活動（PKO）では「掛けつけ警護」や治安維持活動が可能となるよう”任務と使用可能な武器”を拡大しました。多くの憲法学者が「違憲」であるとの声明を出していることから、実質的な憲法改悪であることはもはや明らかとなっている法律です。そのうえ野党五党が今年2月、集団的自衛権は憲法違反だとして、廃止法案を衆院に提出した矢先の施行です。

昨年9月19日に国会前を埋め尽くす労働組合や市民、学生の反対を押し切って国会で成立となった安保関連法でしたが、反対の声は衰えるどころかますます大きな広がりを見せています。

去る3月19日日比谷野外音楽堂では、「戦争法を廃止・安倍政権の暴走を許さない総がかり日比谷大集会」が開催されました。当日は安保関連法（戦争法）に反対する多くの労働者・市民・学生が雨天にもかかわらず5,600人も参加しました。

主催者や野党代表の他、日本医師会会長、日本ボランティアセンター代表、ママの会、ティーンズソウルの16歳の女子高生等々、様々な分野の人たちが戦争法廃止の決意を語りました。そして安保法を廃止するために今後も声をあげてゆくことを確認しあいました。大田区職労からも老若男女16人の組合員が参加し、銀座から東京駅に向けてデモを行いました。

大田区職員9条の会は大田区職労の旗のもと、今後も戦争法廃止、憲法改悪反対の取り組みを進めます。



戦争法廃止オール大田実行委員会講演会

「わたしたちの声が政治を動かしている」

講師 中野晃一さん [市民連合運営委員
立件デモクラシーの会呼びかけ人]

日時：4月7日（木） 18:30～（開場18:00）

会場：大田区消費者生活センター大集会室

資料代：500円

原発のない福島を！ 全ての原発を廃炉へ

3月12日福島県群山市開成山競技場で「2016 原発のない福島を！ 県民大集会」が開かれた。集会は、県内外から8000人が集まり大田区職労も参加した。

集会の直前の3月9日、大津地裁は再稼働中の高浜原発の稼働停止命令を決定した。大津地裁山本裁判長は「原発事故が起きれば環境破壊の範囲はわが国を超える可能性すらある。発電の効率性は甚大な災禍と引き換えにできない」「福島第一原子力発電所の事故の原因究明を徹底して二度と災禍をもたらさない安全確保対策を行うべきだが、関西電力、原子力規制委員会はこの問題と真摯に向き合っていない。」「国が主導して具体的で可視的な避難計画の早急な策定を」などの理由により再稼働中の原発の停止を決定したのである。

今、川内原発が再稼働中で今後も原発再稼働の予定がある。この決定はそうした動きに一石を投じたものであり、福島の経験と現実を訴えている被災者の声を代弁したものともいえる。こうした動きの中で今回の集会は開かれた。

集会では次々と福島の現状が語られた。

「居住条件の悪い仮設住宅での生活は5年に及んでいる。除染は進んでいるが、敷地内に汚染物質がある状態、中間貯場施設も決まっていない。最終処分場も決まっていない。事故の汚染水も太平洋に流れている状態。」（角田政志実行委員会委員長） 「放射能汚染により県内外に避難したことで、喪失感・漂流感がある。いま、私たちの土地は、イノシシやサルの大集団が闊歩し、人間が場違いの状態。有形物は劣化し、無形の信頼とか先人からの歴史が拭い去られた。」（福島被害者原告団 こんの みつのりさん）

未来を担う若者からは、「戦争は良くない。原発は核兵器開発するのではという疑念。8月国連のジュネーブ被爆70周年で行かせてもらった。どんなことがあっても戦争は良くない。交流することが大切だと感じている。」（高校生すずき まなみ平和大使）と発言があり、川内原発の再稼働に反対する現場からは「活断層や火山を研究している学者は、現在火山予知はできないといっているのに火山のある鹿児島で川内原発を再稼働させた。原発事故の避難訓練をやっているけど、体が弱っている人の訓練が達成できないことを鹿児島県知事は「あきらめている」と発言までしている。今、川内原発しか再稼働をしている原発はない。一刻も早く止めなくてはならない。」との発言があった。

原発をなくしたい、平和な日常を取り戻したいと願う福島の人々と逆行している今の政治に対して、怒りがわくとともに闘いの展望を示した集会だった。

「2016 原発のない福島を！ 県民大集会」に参加して、改めて安全な原発などないという思いを強くした。福島第一原発の事故処理が一向に進んでいないにもかかわらず、川内原発を再稼働させている。この原発で事故でも起きようものならば、日本には人の住めるところがなくなるのではないだろうか。事故後のチェルノブイリ原発周辺がそうであるように地図の上が空白になってしまうかもしれない。

政府は原発の輸出を積極的に進めようとしている。技術的には日本より遅れている発展途上国で、原発は「安全」なのだろうか。もし原発で事故が起これば莫大な処理費用がかかる。輸出国として相応の費用負担と人々の生活再建の支援を求められることになるだろう。福島第一原発の事故処理費用を事実上私たち国民が負担している比ではない。原発を輸出する「責任」は決して軽くはないのだ。それだけではない、核燃料が核兵器に転用されることも危惧される。原発の輸出は潜在的な核兵器保有国を拡大させることにもなりかねないということを決して忘れてはならない。